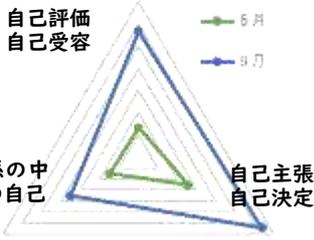


令和3年度 | 学年授業研究会

1. 単元名 跳び箱を使った運動遊び

2. 児童の実態及び指導の手立て

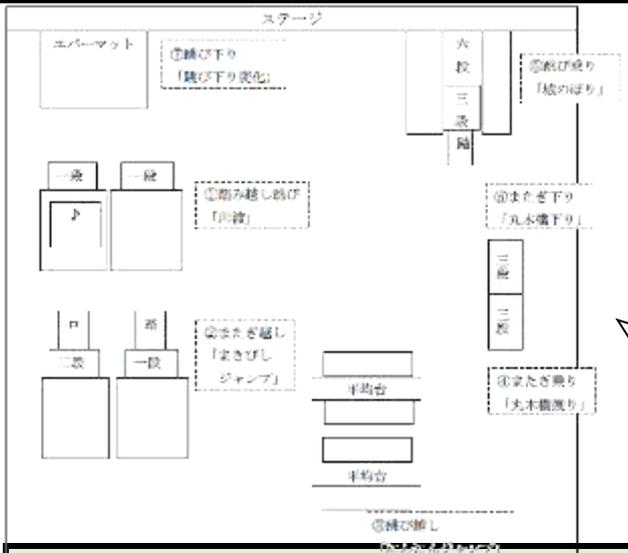
児童の実態		仮説に対する手立て
自己に関するもの 自己評価 自己受容  関係の中での自己	体育に関する内容 ・体育の授業は概ね好き。 ・体を動かすことは好き。 ・跳び箱遊びも概ね楽しみ。	・自ら課題や場を選択、決定して楽しく遊ぶことで、満足感を感じ、自己肯定感を高める。 ・自分や友達のよい動きを認め合ったり励まし合ったりすることで、互いの良さに気づき、所属感を得て運動への意欲を高める。

3. 小中9年間の取組

学年	教材	目指す動き	取り組む技
第1学年	跳び箱を使った運動遊び	・跳び乗りや跳び下り、手を着いてのまたぎ乗りやまたぎ下りをする事。	馬跳び タイヤ跳び うさぎ跳び ゆりかご 前転がり 背支持倒立（首倒立） かえるの逆立ち かえるの足打ち 壁上り下り倒立 支持でまたぎ乗りまたぎ下り 支持で跳び乗り 跳び下り 踏み越し跳び
第2学年			
第3学年	跳び箱運動	・切り返し系や回転系の基本的な技をすること。	開脚跳び→かかえ込み跳び
第4学年			台上前転→伸膝台上前転
第5学年	跳び箱運動	・切り返し系や回転系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったりすること。	抱え込み跳び→屈身跳び
第6学年			大きな台上前転→首はね跳び
中1学年	跳び箱運動	・切り返し系や回転系の技を滑らかに行うこと、条件を変えた発展技を行うこと及びそれらを組み合わせること。	開脚跳び→開脚伸身跳び、かかえ込み跳び→屈伸跳び、頭はね跳び →前方屈腕倒立回転跳び→前方倒立回転跳び、前方屈腕倒立回転跳び→側方倒立回転跳び、仰向け跳び
中2学年			
中3学年	跳び箱運動	・切り返し系や回転系の技を滑らかに行うこと、条件を変えた発展技を行うこと及びそれらを組み合わせること。	今まで学習してきた技

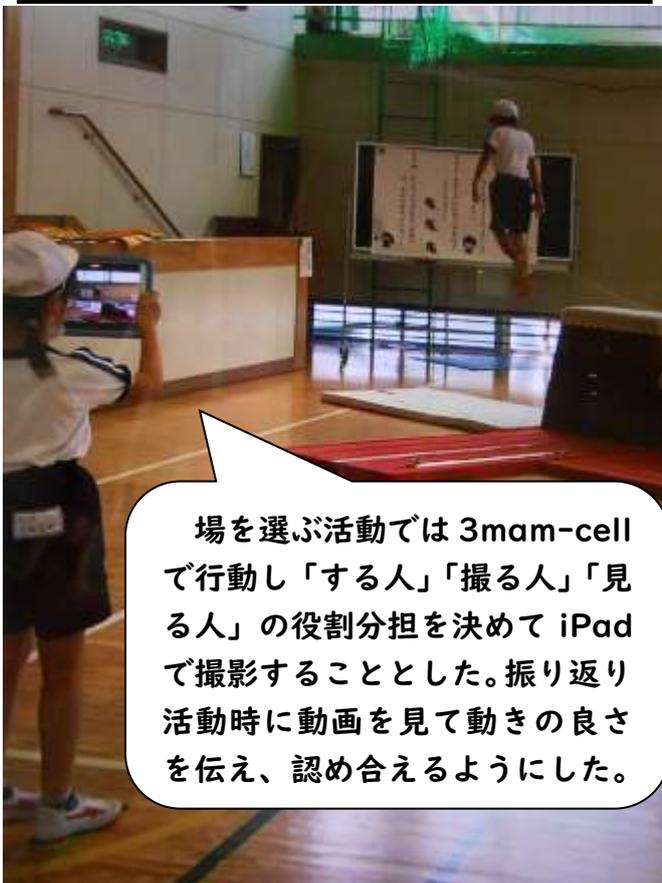
4. 研究授業の様子

多く設定した遊びの場



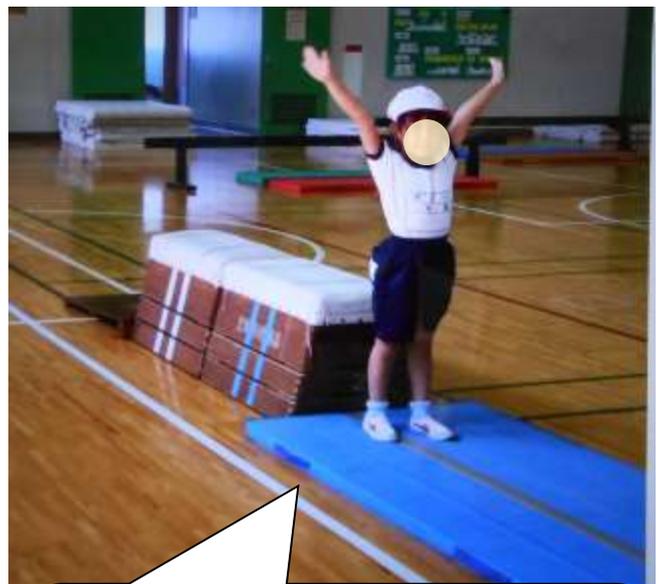
6種類9つの場を設定して、単元を通して取り組むこととした。「着手」「踏切り」「支持」「着地」それぞれの局面の動きを遊びながら身に付け、自ら場や課題を選んで取り組めるようにした。

iPad の活用



場を選ぶ活動では 3mam-cell で行動し「する人」「撮る人」「見る人」の役割分担を決めて iPad で撮影することとした。振り返り活動時に動画を見て動きの良さを伝え、認め合えるようにした。

エキシビション(単元のまとめ)



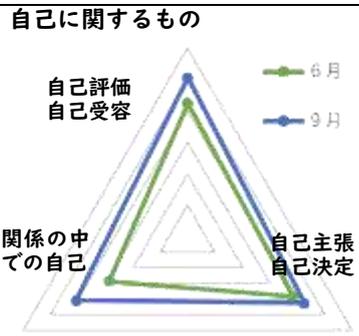
単元のまとめを「エキシビション」として計画した。「互いを讃え、認め合う時間」として、自ら披露したい場を選んで取り組めるようにした。

※研究授業11月2日予定日(画像は事前授業のもの)

令和3年度 2学年授業研究会

1. 単元名 マットを使った運動遊び

2. 児童の実態及び指導の手立て

児童の実態		仮説に対する手立て
自己に関するもの 	体育に関する内容 ・体育の授業は概ね好き。 ・体を動かすことは好き。 ・マット遊びも概ね好き。 ・マット遊びでは倒立やブリッジ、後ろ転がりなどができるようになりたい。	・6段階のスモールステップ「めざせ！金メダルタイム」を設けることで、より多くの達成感を味わわせていく。 ・自己の課題に対して、解決する場を選択する「がんばるタイム」を設けて、主体的に学ぼうとする態度を養う。 ・友達の技のよいところを探す時間を設けて、考えたこと、感じたことを表現しようとする態度を養う。

3. 小中9年間の取組

学年	教材	目指す動き	取り組む技
第1学年	マットを使った運動遊び	いろいろな方向への転がり、手で支えての体の保持や回転をすること。	ゆりかご、前転がり、後ろ転がり、丸太
第2学年			背支持倒立、うさぎ跳び、カエル足打ち、ブリッジ、カエル逆立ち、壁のぼり逆立ち、川跳び超し
第3学年	マット運動	回転系や巧技系の基本的な技をすること。	【基本】前転・後転 【発展】大きな前転、開脚前転、開脚後転
第4学年	マット運動		【基本】壁倒立、腕立て横跳び越し 【発展】補助倒立
第5学年	マット運動	回転系や巧技系の基本的な技を安定して行ったり、その発展技を行ったり、それらを繰り返したり組み合わせたりすること。	【基本】大きな前転、補助倒立 【発展】倒立前転、跳び前転
第6学年	マット運動		【基本】側方倒立回転 【発展】ロングアート
中1学年	マット運動	回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及び組み合わせること。	【基本】倒立前転
中2学年	マット運動		【基本】後転倒立
中3学年	マット運動	回転系や巧技系の基本的な技を滑らかに行うこと、条件を変えた技や発展技を行うこと及びそれらを構成し演技すること。	今まで学習した技による連続技

4. 研究授業の様子

めざせ！金メダルタイムの実施



ポイントを合格したら、金メダルシールをもらえるようにした。また、スモールステップで段階的に目標が達成できるようにした。

がんばりタイムの実施



自分の苦手な動きの場を自ら選び練習する時間を設けた。場所を多く設定することで児童がーか所に固まることなく練習することができた。

友達へのアドバイス



がんばりタイム、金メダルタイムどちらでも実施した。擬音語などでたくさんアドバイスやよかったところの伝え合いができていている児童が多かった。具体的なアドバイスができていている児童も多くいた。

5. 研究授業振り返り

授業者反省	<ul style="list-style-type: none"> 児童が意図した以上に交流をしながら活動していた点が、大変良かった。 場を多数用意したことで、多くの動きに児童が取り組むことができた。 選択できる場がたくさんあった分、安全面の確保が課題。 マットを離して運動量を確保した分、数が増えて見とれなかった。 低学年の「遊び」という単元の扱いが非常に難しかった。
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> 児童はとても意欲的に取り組んでいたため、大変良かった。 片付けのスピードがとても速く、かつ安全に取り組めていたのが良かった。 「がんばりタイム」では、個人よりペアで活動させた方が良かったのではないかと。 友達の動きを見ていない人がいたから、小道具を用意して意図的に見るように声をかけた方が良かった。 技能中心の授業展開だったので、全体的にストーリー性を持たせた方が良かった。
ご指導内容	<ul style="list-style-type: none"> 教え合いが活発で片付けも速く正確であったため、学習規律がしっかりされていることが伝わった。 動きに競争性を持たせると、意図する動きが疎かになってしまう。色々な動きを経験させた方が良い。 声掛けの必要感をもっと持たせた方が良い。 できる子とできない子の活動量に差が生まれてしまっていたため、グルーピングや場の設定の工夫が必要である。

令和3年度 3学年授業研究会

1. 単元名 表現運動

2. 児童の実態及び指導の手立て

児童の実態		仮説に対する手立て
<p>自己に関するもの</p>	<p>体育に関する内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ・体を動かすことは好き。 ・低学年のリズム遊びでは、曲のリズムに乗って楽しく踊ることができた。 ・与えられた題材に対して、どのように体を動かしているのか、ということに慣れていない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・感覚づくりで多様な動きを経験させることにより、自信をもって活動に取り組ませる。 ・与えられた題材に対して、誇張した表現を選択させることで、主体的な学びを展開する。 ・互いに見合う時間を設け、よい動きを共有することで、運動への意欲を高めていく。

3. 小中9年間の取組

学年	教材	目指す動き	取り組み方
第1学年	表現遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な題材の特徴を捉え、そのものになりきって全身で即興的に踊ること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・動物の特徴を捉え、即興的に表現する。(動物、昆虫、海の生き物)
第2学年	リズム遊び	<ul style="list-style-type: none"> ・軽快なリズムの音楽に乗って弾んで踊ったり、友達と調子を合わせたりして即興的に踊ること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・簡単なお話作り
第3学年	表現	<ul style="list-style-type: none"> ・空想の世界からの題材を取り上げ、その主な特徴や感じを捉えて、動きに差をつけて誇張したり、表したい感じを2人組で対応する動きや対立する動きで変化を付けたりして、メリハリのあるひと流れのある動きで即興的に踊ること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・〇〇さんがころんだ ・ジャングル探検等
第4学年	リズムダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・軽快なロックやサンバなどのリズムの特徴を捉え、リズムに乗って弾んで踊ったり、友達と関わり合ったりして即興的に踊ること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ダンスパーティー
第5学年	フォークダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・日本の民謡や外国の踊りの踊り方の特徴を捉え、基本的なステップや動きを身に付けて、音楽に合わせてみんなで楽しく踊って交流すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ジェンカ、キングーポルカ、タタロチカ
第6学年	表現	<ul style="list-style-type: none"> ・いろいろな題材から主な特徴を捉え、表したい感じやイメージをひと流れの動きで即興的に表現したり、グループで簡単なひとまとまりの動きにしたりして表現すること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・表現かるたを使い多様な動きを経験 ・地球の危機等
中1学年	創作ダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・多様なテーマから表したいイメージを捉え、動きに変化を付けて即興的に表現することや、変化のあるひとまとまりの表現をすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・身近な生活や日常動作 ・対極の動き
中2学年	現代的なリズムのダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・リズムの特徴を捉え、変化とまとまりを付けて、リズムに乗って体幹部を中心に全身で自由に弾んで踊ること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・ロック ・ヒップホップ
中3学年	創作ダンス	<ul style="list-style-type: none"> ・表したいテーマにふさわしいイメージを捉え、動きに変化を付けて、即興的な表現することや、個性を生かした簡単な作品にまとめて踊ること。 	<ul style="list-style-type: none"> ・多様な感じ ・群の動き ・はこびとストーリー

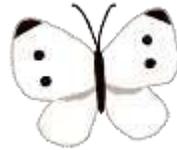
4. 研究授業の様子

感覚づくりの工夫



「表現かるた」では、毎時間テーマに沿ったかるたを使用する。児童が多種多様な動きを身に付けていた。感覚づくりで、ねらいに沿った動きをたくさん経験させることで、題材に沿った動きを即興的に表現しやすくなった。

2時生き物かるた 3時天気かるた 4時群の動きかるた



空間を広く使う動き



体幹を変化させる動き



対応する動き

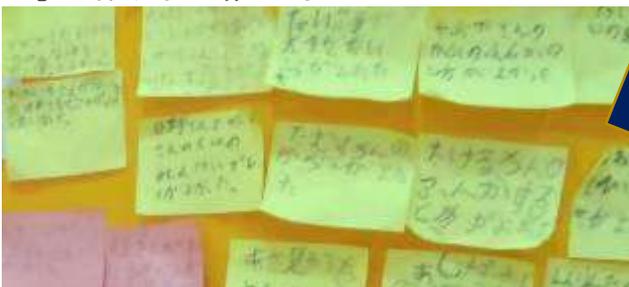
iPadの活用

題材に対するイメージを膨らませることができるよう、iPadを活用し、絵や写真を提示した。グループで表現を考える時には、ロイノートに話し合うテーマを提示した。



付箋による関わり合いの場

友達の良い動きを付箋に書き、友達の動きの良さを認め合った。授業を重ねるごとに、付箋の枚数も増えて、児童の自己肯定感を高めることができた。単元が終わった子は「表現運動が楽しかった」と話す子が増えた。



5. 研究授業振り返り

授業者反省	<ul style="list-style-type: none"> ・自分自身が没入しすぎて、周りを見きれていないときがあった。 ・少ない話し合いの中で、マスクを外してどこまでやってよいのか悩んだ。 ・本時のめあての「メリハリ」を事前に伝えたことで、めあてに沿った動きを引き出すことができた。 ・本来は感覚づくりの活動から、めあてである「メリハリ」を児童から引き出したかった。
協議内容	<ul style="list-style-type: none"> ・「表現かるた」を通して、多様な動きを習得したのがよかった。 ・iPadを活用することで、各自で本時のめあてを再確認できるのがよかった。 ・めあてのメリハリが「場面ごとのメリハリ」か「場面内のメリハリ」なのかが不明確で児童がどうメリハリをつけたらいいのかわからなかった。
指導内容	<ul style="list-style-type: none"> ・めあてがあいまいであったため、教師のねらった動きと児童の動きが不一致であった。 ・iPadを使って動画を撮影しているので、全体で共有するとよかった。 ・より具体的な言葉で褒めるとよかった。

令和3年度 5学年授業研究会

1. 単元名 ハンドボール

2. 児童の実態及び指導の手立て

児童の実態		仮説に対する手立て
<p>自己に関するもの</p> <p>自己評価 自己受容</p> <p>関係の中での自己</p> <p>自己主張 自己決定</p> <p>6月</p> <p>9月</p>	<p>体育に関する内容</p> <ul style="list-style-type: none"> ボール運動が好きな児童は8割。 ハンドボールという競技に関する知識や経験はない。 	<ul style="list-style-type: none"> 自分達のチームに合った作戦を考えたり選択したりし、課題を解決する活動を通して、達成感を味わえるようにする。 基礎的な技能の向上を通して、自らの成長や良さに気づけるようにする。

3. 小中9年間の取組

学年	教材	目指す動き	取り組み方
第1学年	的当てゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ねらったところに緩やかにボールを転がす、投げる、的に当てること。 相手コートに緩やかにボールを投げ、入れたり、捕ったりすること。 ボールを捕ったり止めたりすること。 	<ul style="list-style-type: none"> いろいろな的をねらって投げる
第2学年	投げ入れゲーム	<ul style="list-style-type: none"> ボールを持ったときにゴールに体を向けること。 味方にボールを手渡したり、パスを出したり、シュートをしたり、ゴールにボールを持ち込んだりすること。 ボール保持者と自分の間に守る者がいない空間に移動すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 守りがいる中での的をねらって投げる
第3学年	タグラグビー	<ul style="list-style-type: none"> ボールを持ったときにゴールに体を向けること。 味方にボールを手渡したり、パスを出したり、シュートをしたり、ゴールにボールを持ち込んだりすること。 ボール保持者と自分の間に守る者がいない空間に移動すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 1チーム6人(7人) 試合は3vs2のローテーション制 攻守交代制
第4学年	セストボール	<ul style="list-style-type: none"> ボール保持者と自分の間に守る者がいない空間に移動すること。 	<ul style="list-style-type: none"> 攻守交代制 3対2(アウトナンバー) チーム全員がボールに触る
第5学年	ハンドボール	<ul style="list-style-type: none"> 近くにいるフリーの味方へのパスをすること。 相手に取られない位置でのドリブルをすること。 得点しやすい場所への移動とパスを受けてからのシュートをすること。 ボール保持者と自分の間に守備者が入らない位置への移動をすること。 得点しやすい場所への移動とパスを受けてからのシュートをすること。 ボール保持者とゴールの間に体を入れた守備をすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ハーフコート 3VS3(GKあり) ドリブルなし ボールを持って歩けない(シュートゾーンのみ可)
第6学年	ハンドボール	<ul style="list-style-type: none"> ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすること。 マークされていない味方にパスを出すこと。 得点しやすい空間にいる味方にパスを出すこと。 ボールを持っている相手をマークすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ハーフコート 1チーム5人(6人) 試合は4vs4 ドリブルあり 3歩以内での移動は可能
中1学年	ハンドボール	<ul style="list-style-type: none"> ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすること。 マークされていない味方にパスを出すこと。 得点しやすい空間にいる味方にパスを出すこと。 ボールを持っている相手をマークすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ハーフコート 少人数での対戦 ドリブルあり 3歩以内での移動は可能
中2学年	ハンドボール	<ul style="list-style-type: none"> ゴール方向に守備者がいない位置でシュートをすること。 マークされていない味方にパスを出すこと。 得点しやすい空間にいる味方にパスを出すこと。 ボールを持っている相手をマークすること。 	<ul style="list-style-type: none"> ハーフコート ドリブルあり 6vs6
中3学年	ハンドボール	<ul style="list-style-type: none"> ゴールの枠内にシュートをコントロールすること。 ゴール前に広い空間を作り出すために、守備者を引きつけてゴールから離れること。 パスを出した後に次のパスを受ける動きをすること。 ゴール前の空いている場所をカバーすること。 	<ul style="list-style-type: none"> 概ねオフィシャルルール ハーフコート 7vs7

4. 研究授業の様子

自ら課題を見つけるための学習過程

時	1	2	3	4	5	6	7	
内容	ハンドボールの基礎を学ぶ。	シュートゾーンまでボールを運ぶ。	リーグ戦のルールを学び、ポイントを決める。	1チーム1人ずつ交代してリーグ戦を行う。	チームの課題を見つける方法を学ぶ。	チームごとに課題を解決するための練習を行う。	1チーム1人ずつ交代してリーグ戦を行う。	
目標	ハンドボールの基礎を学ぶ。	シュートゾーンまでボールを運ぶ。	リーグ戦のルールを学び、ポイントを決める。	1チーム1人ずつ交代してリーグ戦を行う。	チームの課題を見つける方法を学ぶ。	チームごとに課題を解決するための練習を行う。	1チーム1人ずつ交代してリーグ戦を行う。	
学習過程	1. ハンドボールの基礎を学ぶ。 2. シュートゾーンまでボールを運ぶ。 3. リーグ戦のルールを学ぶ。 4. 1チーム1人ずつ交代してリーグ戦を行う。	3. チームごとに課題を見つける方法を学ぶ。 4. チームごとに課題を解決するための練習を行う。						

課題を見つけるためのリーグ戦

課題を整理する時間

課題を解決する時間

まとめのリーグ戦

自分達のチームの課題は試合でこそ明確になると考え、単元の中盤に課題を見つけるためのリーグ戦を設定した。児童はシュートゾーンまで効果的にパスをつなげられた経験をもとに、どうしてうまくいったかを考え、チームでねらいとする動きが出る作戦や練習を考えることにつながった。
また試合を重ねるごとに自分達でルールを修正したり加えたりすることにもつながった。

ルールや場の工夫

iPadの活用



作戦ボード用アプリ

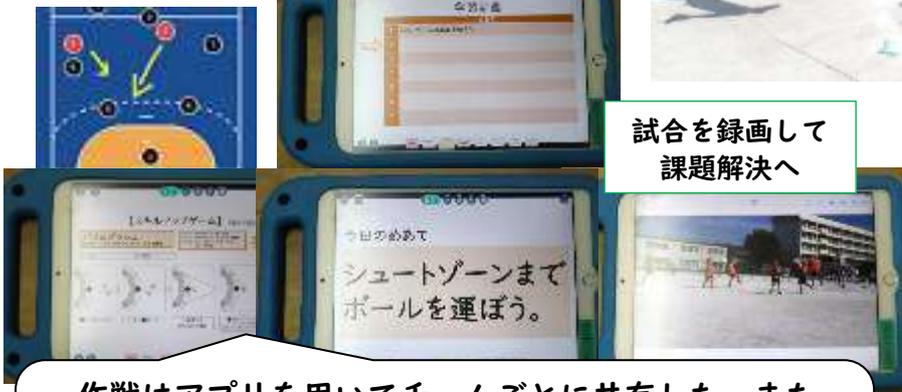
本時のねらいをロイロノートで共有



試合を録画して課題解決へ



シュートゾーンの範囲を十分に確保し、ディフェンスのない状態で思い切りシュートを打てるようにした。



作戦はアプリを用いてチームごとに共有した。また、学習のめあてやポイントをすべてロイロノートで共有しいつでも振り返られるようにした。さらに、リーグ戦も撮影し、試合の様子も振り返られるようにした。

※研究授業11月2日予定日(画像は研究授業以前のもの)

手立て④ ローテーション運動

業前運動にローテーション運動を導入した。明正小学校の体力課題は、走力および投力であったため、走力向上の取組2種、投力向上の取組2種の合計4種類をローテーションする。

29学級と学級数が多いため、校庭使用に制限がある。そのため、水曜日を低学年、木曜日を中学年、金曜日を高学年と設定した。

低学年では、走力・投力に加え、多様な動きを経験させるため、さらに種目を増やしている。ブロックごとに曜日を決めて行っているため、学年の課題や実態に応じて種目の変更や調整を行いやすいという利点がある。

走力向上① 障害物折り返しリレー



コーンやミニハードル等の障害物を置き、多様な動きをしながら折り返しリレーを行う。

コーンを避けるステップが自然と母指球で地面を蹴りだし、体の軸を安定させる動きにつながり、走力向上につながると考える。

走力向上② 50m8秒間走



スタート位置を自分で調整し、8秒間でゴールを通過する。同じ組で走る児童同士で走力差があってもスタート位置を調整できるため、走ることが苦手と感じる児童も抵抗感が少なく、全力で取り組みやすいと考える。

投力向上① 投げこし合戦



ロープ（地上約3m）を超えて投げ越す。

ソフトボール協会による投力向上プログラムでの学習をもとに作成。バスケットゴールのボード上部からつながっているロープに塩ビ管パイプを組み合わせたものをつなげた。

自然と遠投をするフォームとなり、斜め上に投げるために角度が生まれ、投力向上につながると考える。

投力向上② 的あてゲーム



円の中心にある的に向かって、的を倒す。力強く投げることをねらいとする。投げる際は、明正投球の合言葉、①セット、②指さし、③ふりおろす！の合言葉で一斉に投げる。

学年よっての的の倒れにくさや的までの距離を調整している。時間内での的を何個倒せるかという取り組み方も行っている。



低学年ブロック 多様な動きの活動



固定施設を使った運動遊びをもとに、雲梯、上り棒、鉄棒、ジャングルジム、タイヤ跳びなどに取り組む。

学年や学級の実態に応じて、取り組む種類や量を調整することができる。

手立て⑤ 明正プロジェクト

多様な人との関わりを通し、互いの良さに気づくための手立てとして明正プロジェクトを実施している。明正プロジェクトは、特別活動部・生徒指導部より立案され、児童会・代表委員会中心に計画されている。

具体的には、各学級で目標を立て、達成に向けて活動を行う。例えば、長縄連続〇〇回、読書数〇〇冊達成など、それぞれに学級全体で目標を決めて取り組む。全員で達成することにより、所属感や達成感の向上につながり、基本的な学習意欲の向上につながると考える。



達成すると児童会・代表委員より賞状と花束が贈呈される

写真は割愛

手立て⑥ 保健学習の充実

保健学習について、授業だけでなく日常生活の保健指導で得た知識が活用される必要がある。そのために、魅力ある保健学習を提供し、確かな学習内容の理解を促進するために、専門性の高い授業を提供する必要がある。

そこで、保健学習が授業として本格的に開始される3学年以降からゲストティーチャーを活用し、専門性が高く、かつ魅力的な授業の展開を目指した。

3年 保健学習
けんこうな生活



手洗いについて、ブラックライトを使用して汚れを確認した。養護教諭による手洗い方法の指導から、児童の手洗いへの意識が高まった。



4年 保健学習 体の成長とわたし



心と体の発達について、第一次成長期による男女の体つきの変化などの学習は、養護教諭が専門的な見地から解説する。

また、中学校保健体育を専門とする校長先生による講話も授業に組み込んだ。



5年 保健学習 心の健康

心の健康についてのテキスト等の資料

※資料写真は割愛

心の健康について、スクールカウンセラーをゲストティーチャーとして授業を展開する。

臨床心理士というかなり高度な専門性のあるゲストティーチャーから、心と体の影響し合う仕組みや、不安を抱えてしまったときの対処方法を中心に扱う。

担任だけでなく、身近に専門の先生がいることも児童に伝わる。また、今後は学校相談員の方をゲストティーチャーとすることも計画している。

6年 保健学習 病気の予防



歯がどのくらい白く汚れているか？

カラーテスト

6年 組 名前 _____

※写真撮影のときも、歯を白く保ちましょう。

☆自己評価☆ 歯を磨いておてあげたものに、○をつけましょう。

A ほとんど白く汚れている	C 半分くらい白く汚れている
B ところどころ白く汚れている	D 全体が白く汚れている

※歯の健康を維持するために、歯磨き粉を歯磨き剤として使ってください。

生活習慣病の予防では、養護教諭と連携して歯のカラーテストを実施している。また、歯磨きだけでなく栄養素や食事のバランスといった家庭科の学習とも兼ねて栄養教諭との連携も行った。

栄養教諭をゲストティーチャーとして招聘し、バランスのいい食事から生活習慣病の予防へとつなげた。

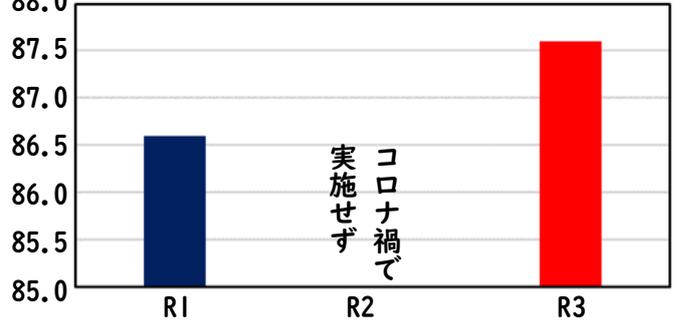
また、薬物乱用防止については、継続して埼玉県警察非行防止指導班「あおぞら」による薬物乱用防止教室を実施する。

成果と課題

新体力テスト総合目標の分析

新体力テスト総合評価A+B+Cの割合は、88.0%であった。コロナ禍で様々な制限があったが、研究開始以前よりも割合がわずかであるが増加している。コロナ禍の昨年度は減少していたと予想できるが、その渦中でも3つの仮説による研究の成果があらわれ、体力の向上につながったと考えられる。

総合評価A+B+C児童の割合

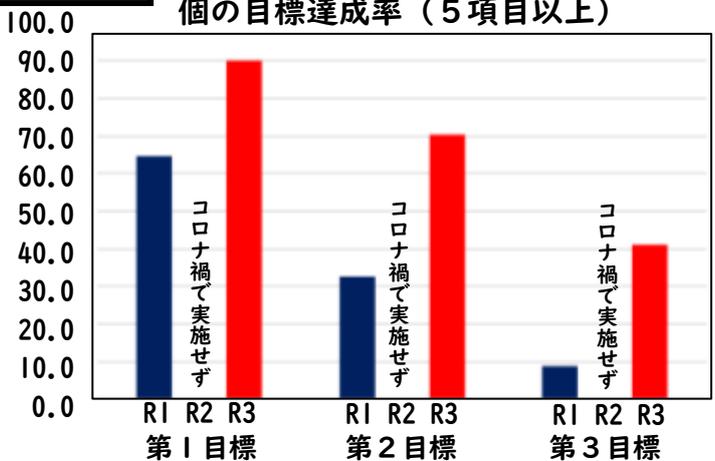


新体力テスト 個の目標達成率の分析

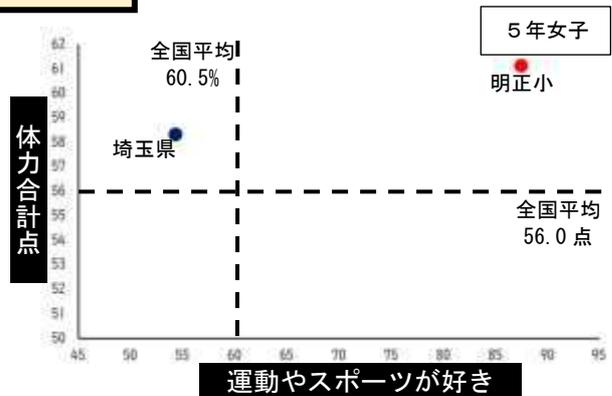
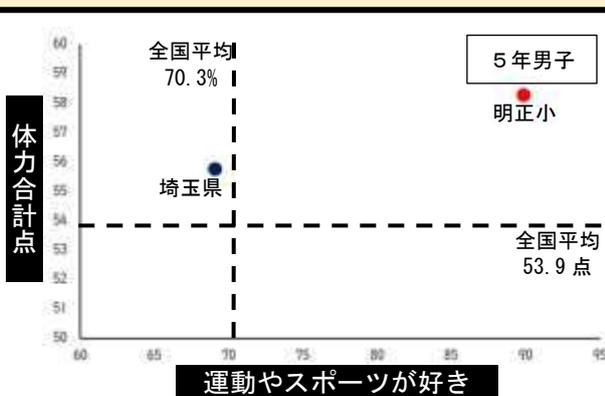
個の達成目標率は、R3年度で第1目標達成率 90.0%、第2目標達成率 70.3%、第3目標達成率 41.0%と埼玉県目標値である55.0%よりも高い値となった。この点からも児童の体力が高まっているということがいえる。

さらに第3目標を達成できる児童の割合を増やしていくための、より効果的な方法について分析していく必要がある。

個の目標達成率（5項目以上）



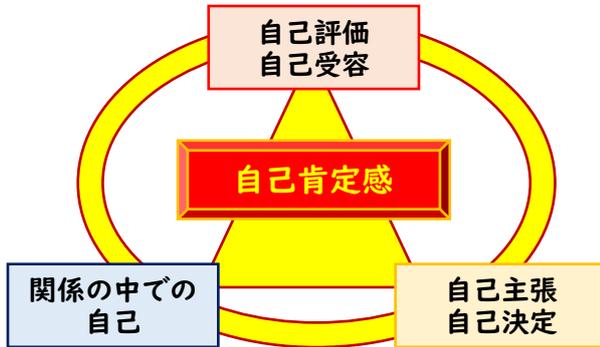
体力合計点と運動スポーツ好意度の関係



体力合計点と運動スポーツ好意度の関係の結果では、全国平均および埼玉県平均よりも高い値となった。それぞれ5年男子は 58.2 点・89.8%、5年女子は 61.1 点・87.5%であった。このことから、研究の取組が運動やスポーツが好きであり体力の高い児童の育成につながったと考えられる。

自己肯定感と体育授業の関係

越谷市教育委員会が毎年6年生対象に実施しているアンケート調査をもとに、自己肯定感に関わる質問項目を作成し、実施した。各学期はじめに調査し、結果を研究で分析し授業に反映させる。



加えて体育授業に関するアンケート調査も行い、自己肯定感と体育授業との相関関係についても調査を行った。

4月当初のアンケート結果では、自己主張自己決定の値が、他の2項目と比べ、わずかであるが低かった。同時に行った体育調査では、【体育授業内で自分の考えを提案したり選んだりする場面】が全体の中では低い傾向にあった。

体育授業において【提案したり、選んだりする場面】を中心に設定することで、【自己主張・自己決定】に関する自己肯定感も高まると考えた。そこで、体育授業を中心に、自分の考えを提案したり選んだりする場面を確実に授業内で設定していくこととした。

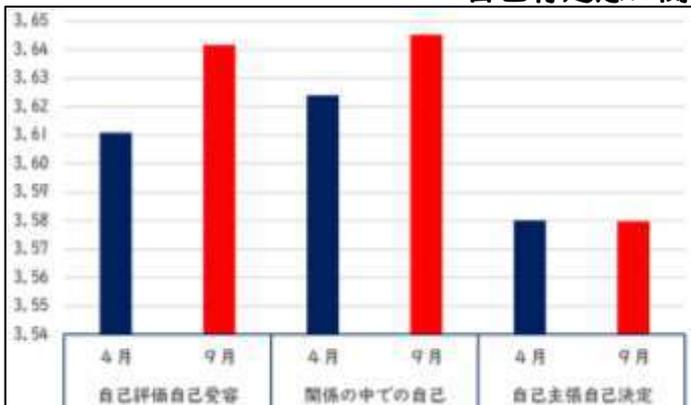
その結果、【体育授業で提案したり選んだりする場面】のポイントは上昇したが、ねらいとする自己主張自己決定ではなく、他の2項目がわずかだがポイントが上昇した。このことから、体育授業における【提案したり選んだりする場面】は、自分の考えが友達に受け入れられるといった経験となり、自己評価を高めたり、関係の中での自己の意識を高める要素のほうが強い可能性が示唆された。

今後は自己主張自己決定を向上させるための手立てをさらに分析する必要がある。

自分の気持ちアンケート

		年 組	番 名 前 ()
		「あてはまる」 →4	「どちらかといえばあてはまる」 →3
		「どちらかというあてはまらない」 →2	「あてはまらない」 →1
No	項目		
1	自分のことが好きである。	4-3-2-1	
2	自分には良い朝がある。	4-3-2-1	
3	普段より存在を大切に思える。	4-3-2-1	
4	自分はやればできる。	4-3-2-1	
5	頑張って「良かった」と思ったことがある。	4-3-2-1	
6	自分は成長している。	4-3-2-1	
7	自分ほんと同じぐらい価値のある人間である。	4-3-2-1	
8	自分はみんなの役に立っている。	4-3-2-1	
9	人のために力を尽くしたい。	4-3-2-1	
10	家だちや先生から大切にされている。	4-3-2-1	
11	先生や先生は、頑張ったことを認めてくれている。	4-3-2-1	
12	人の意見を素直に聞くことができる。	4-3-2-1	
13	人に迷惑がかからないよう、一歩引くことは責任をもって取り繕む。	4-3-2-1	
14	自分の事を守ってくれている親や友人に感謝している。	4-3-2-1	
15	クラスの中で、尊敬らしくいられている。	4-3-2-1	
16	将来の夢や目標がある。	4-3-2-1	
17	人と違っていても自分が正しいと思う事は世界である。	4-3-2-1	
18	自分の中には様々な可能性がある。	4-3-2-1	
19	自分の有難いや行動を認めることができる。	4-3-2-1	
20	自分にはだれにも負けないもの(こと)がある。	4-3-2-1	
21	自分のことは自分で決める。	4-3-2-1	
22	自分の個性を大切にしたい。	4-3-2-1	
	体育の授業で意見を提案したり、何か選んだりする場面があった。	4-3-2-1	
	体育で、何かができるようになったという経験があった。	4-3-2-1	
	体育の授業で、友達の名前や自分の長さを覚えることがあった。	4-3-2-1	
	体育の授業で、運動の楽しさを覚えることがあった。	4-3-2-1	
	体育の授業で積極的に取り組んだ。	4-3-2-1	

自己肯定感に関する調査 (四件法)



自己肯定感	4月	9月
自己評価自己受容	3.61	3.64
関係の中での自己	3.62	3.65
自己主張自己決定	3.58	3.58

体育授業における自分の考えの提案や選択場面の経験は、自己肯定感における【自己主張や自己決定】よりも【自己評価や自己受容】【関係の中での自己】の向上に影響がある可能性がある。

体育授業に関するアンケート調査 (四件法)

体育で自分の考えを提案したり、何か選んだりする場面があった。

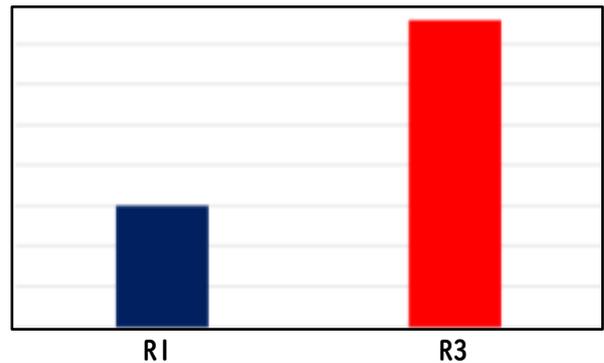
	4月	9月
体育で自分の考えを提案したり、何か選んだりする場面があった。	3.29	3.44

運動好きの児童の変容

体育や外遊びが好きであるという質問に対し、【そう思う】【どちらかといえばそう思う】と回答した児童の割合は、R1年度では、88%だったのに対し、R3年度では92.6%と向上した。

児童が、体育や運動に対して、他の満足感や楽しさを感じていることが考えられる。

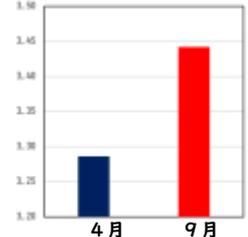
体育や外遊びが好きと答えた児童の割合



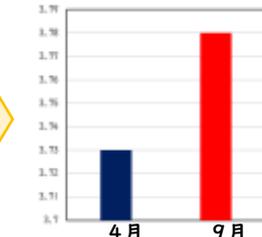
仮説の検証

①自分の思いを正しく表現したり自ら選択、決定したりする場を多く設ければ、主体的に学び、体力が高まるであろう。

自分の考えを提案する場面



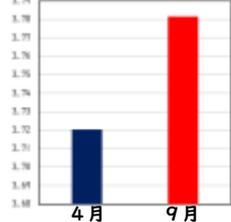
体育授業に積極的に取り組んだ



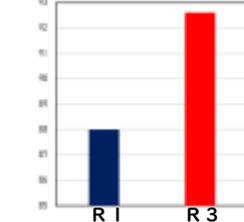
授業で、自分の考えを提案する場面が増え、体育に主体的に参加する意識が高まった。

②できなかったことができるようになったり目標を達成したりすると、満足感を感じ、運動への楽しさを感じて体力も高まるであろう。

体育でできるようになった



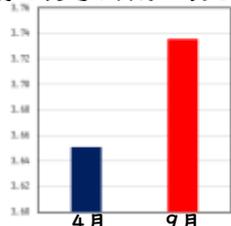
運動が好きな児童の割合



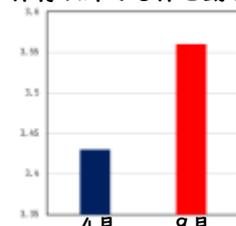
授業で、できなかったことができるようになった経験が、満足感につながり、運動好きな児童の育成につながった。

③多様な人との関りを通して互いの良さに気づけば所属感を感じ、運動への意欲が高まり、体力も高まるであろう。

体育で友達や自分の良さを感じた

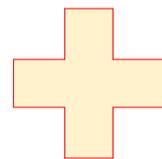


体育以外でも体を動かす

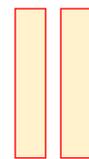


友達や自分の良さに気づき、所属感が高まったため、体育以外でも友達と一緒に外で遊ぶといった運動の意欲が高まった。

新体力テスト
総合評価
A+B+C児童の
割合の増加



新体力テスト
個の目標達成率
5項目以上達成
割合の増加



体力の
高まり